

子どもたちを包み込む 支えあい・助けあいプロジェクト

対象とする課題

子どもは、私たちに喜びと活力を与えてくれる宝であり、将来の由布市を担う大切な財産です。すべての子どもたちが健やかに育ち、笑顔を絶やさないことは、誰もが願うことであり、そのための環境をつくることは私たちの責務です。

しかし、地域におけるつながりの希薄化や少子化、核家族化の進行等により、子育てに対する保護者の不安感や負担感が増大し、さらに、両親の共働きやライフスタイル[○]の変化により、子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所が少なくなってきました。

そのような中、今こそ、子どもの目線に立った子育て環境を見つめ直し、家庭、学校、地域、企業、そして行政が一体となって、お互いに連携し協力し合える地域を形成しなければなりません。子育ての基本を担う保護者自身が地域全体に支えられ、助けられる中で成長していくとともに、子どもたちが心身ともに健やかに力強く成長することができる環境づくりが急務となっています。

目 標

活力ある由布市をつくるため、若い世代が家庭を築き、次世代を担う子どもたちを安心して生み育てられる条件整備の推進と、すべての子どもたちを包み込む、支えあい、助け合いの市民総子育て社会の構築を目標とします。

基本方針

- ① 子育ての第一義的責任を担うのは保護者であり、そのための家庭教育と職場環境におけるワークライフバランスを実現し多様な生き方が選択・実現できる社会の推進を図り、かけがえのない存在としての家族づくりを支援する。
- ② 核家族化や両親共働きの増加に伴う、保育サービス充実や放課後の子どもたちの居場所づくりに対するニーズに応える一方、家庭で保育している保護者が孤立しないための環境整備の充実を目指す。
- ③ 地域の宝である子どもを中心に、地域全体が世代を越えてつながり合い、子どもの成長を支えあう地域づくりを目指す。

成果指標

指標名	直近値	目標値	指標の説明
「家族の日」を推進	—	3回／年	企業、学校、自治区、行政との連携により家族でふれあう時間をつくる
子どもの居場所づくり (児童館、放課後児童クラブ、親子サークル、病児病後児保育施設等)	20 施設 (H 27 年度)	23 施設 (H 32 年度)	すべての児童が安心して過ごすことのできる居場所の確保
子育てサポーターの養成	0 人	50 人 (H 32 年度)	子育てを支えるサポーターの養成



用語解説 【ライフスタイル】

生活様式。個人の経済状況、考え方、価値観等を含んだ一人ひとりの生活のあり方。

推進体制

家庭(子ども)を中心とした支えあいの子育て環境を実現!



目標実現に向けた主な取り組み

	主な取組名	取組内容の説明	担当課	関係課
1	家族ふれあい推進事業	親子を結びつけ、家族のきずなを深めるきっかけづくりを推進するため、絵本の「読み聞かせ」による親子のふれあいや休日を家族で過ごすことのできる「家族の週間」を奨励する等の家族愛を深める事業を推進する。	子育て支援課	健康増進課 社会教育課 総務課等
2	子どもの居場所づくり事業	既存公共施設の利活用等の中で、安全で安心して過ごせる子どもの居場所づくり（児童館、放課後児童クラブ、親子サークル、児童公園、病児病後児施設等）の充実・拡充を推進する。	子育て支援課	地域振興課 社会教育課 教育総務課 学校教育課 都市・景観推進課等
3	市民総子育てサポート事業	世代を超えて地域に眠っている人材を活用するため、「子育てサポーター」を養成する講座等を開設し、市民総子育てサポーターの地域社会の構築を推進するとともに、様々な人材のネットワーク化や組織化を視野に入れた中間支援組織づくり設立に向けた調査研究を進める。	子育て支援課	健康増進課 福祉対策課 社会教育課 総合政策課 地域振興課等

目標実現に向けたステップと5カ年のスケジュール

家族ふれあい推進事業

既に事業実施しているブックスタート事業（乳児家庭全戸訪問事業）を継続する中で、絵本を通じた親子のふれあいをより一層奨励し、特に乳幼児期からの父親の育児参加を促します。企業、地域の協力・連携のもと「家族の週間」を奨励し、休日を家族でゆっくりと過ごすことのできる時間を徐々に増やしていきます。

子どもの居場所づくり事業

既存施設、特に本庁舎移行後の挟間、湯布院庁舎を中心に、異世代交流施設を視野に含めた子どもと高齢者が互いに支えあえる安全で安心した居場所づくりを進めます。子育て世帯へのアンケート調査でもニーズの高かった公園整備について、既存設備と管理状況を確認する中で、使用者である地域住民の維持管理における責任等を含めた充実・拡充を検討します。

市民総子育てサポート事業

両親共働きや社会環境の変化により、子育てに多くの時間を割くことのできない保護者を支えるため、シニア世代や子育てがひと段落した女性等の新たな雇用創出を踏まえ、一人ひとりができる範囲での子育てサポーターとして活躍できるよう養成し、ゆくゆくは市民総子育てサポーターとなれる地域社会を進めます。子育てサポーターや既に様々な活動の中で子育て支援に携わっている人材のネットワーク化や組織化を視野に入れて、中間支援組織づくりを検討します。

	主な取組名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
1	家族のふれあい推進事業	実施				評価・検証 及び表彰等
2	子どもの居場所づくり事業	実施				
3	市民総子育てサポート事業	検討・実施				



子どもたちを包み込む
支えあい・助けあいプロジェクト

